

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073400477		
法人名	有限会社 寿楽		
事業所名	グループホーム 安寿		
所在地	〒818-0122 福岡県太宰府市高雄1丁目3664番地256 092-921-8780		
自己評価作成日	平成24年07月13日	評価結果確定日	平成24年09月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294		
訪問調査日	平成 24年09月04日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達は、利用者の方が安心して過ごして頂ける事を第一に考えて、家庭的な雰囲気の中で安心して暮らせるように環境を整え、理念にある、皆で笑いあえる家・真心のこもった介護を目指して支援しています。また、基本方針の中にある、笑顔が絶えないグループホームを目指し、職員は笑顔が絶やさないことで利用者の方も笑顔になり、行事などの余興では職員が自ら楽しみ、とても雰囲気よく皆さん暮らしておられます。毎週月曜日に地域の防犯パトロールにも参加して地域の方と交流を深め、地域の行事にも、地域の方よりお誘いが多々あり、職員も利用者の方も楽しんでおられます。職員の定着率もよく、4年以上勤めている職員がたくさんいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

学問の神様「太宰府天満宮」近くの住宅地の中に、複合福祉施設併設のグループホーム「安寿」がある。職員全員で作ったホーム理念と、方針を掲げ、利用者一人ひとりに合わせた介護サービスを提供し、管理者と職員の、チームワークの取れた質の高い介護は、利用者の心身機能の維持、向上に繋げ、利用者と家族の深い信頼に結び付いている。利用者と職員は、地域のパトロールや、各種行事に参加し、ホームの餅つき大会には、沢山の地域の方が駆け付け、小学生とのボランティア交流等、活発な地域交流が始まっている。また、基幹病院主催の「医療・介護ネットワーク」に毎回10人以上で参加し、介護現場における医療の在り方を理解し、かかりつけ医との連携を強化し、利用者の生きる喜びを、一緒に職員が探し、利用者の心身機能維持を目指すグループホーム「安寿」である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+ ) + (Enter+ )です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本方針に地域とのつながりということをおき、理念は職員全員で考え、毎週月曜日に職員全員で唱和し共有している。	全職員で話し合っって作った「皆で笑い合える家、真心のこもった介護」という理念と基本方針を掲示し、職員間で共有している。職員は、「利用者が今笑っていられたらいいな」「利用者の望みを叶えてあげたい」という思いで、利用者一人ひとりに合わせた取り組みを実践している。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎週月曜日に地域の防犯パトロールに参加し、その他行事がある際には呼んでもらっている。	地域の防犯パトロールに毎週参加し、町内行事に利用者と職員が参加している。ホーム主催の餅つき大会に地域の方が大勢参加される等、活発な交流が始まっている。また、小学校との連携強化の一環として「力・かし隊」に参加する事も検討中である。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や防犯パトロールの時などに地域の方と話をしている。	
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を行ない利用者のことや状況を報告している。その中で出た意見を基にサービスに活かしている。	利用者代表、家族、地域代表、民生委員、市役所職員の参加により、2ヶ月毎に定期開催している。会議では、状況、活動、ヒヤリハット、課題等について報告し、参加者からは活発な意見や情報提供がある。意見や質問等次回開催までに検討し、報告出来るよう取り組んでいる。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも毎回参加してもらい、何かある時は相談もしている。	行政との協働事業で講師を務めたり、行政主催の研修会に参加する等、地域福祉への貢献を目指し取り組んでいる。また、運営推進会議に市職員の出席があり、ホームの現状を理解してもらいアドバイスを受けている。
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には施錠せず、自由に出入りでき、身体拘束に関する規約を職員が見える所におき、いつでも見てもらい、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	外部研修に参加し、言葉かけを含めた身体拘束について学び、職員間で身体拘束が利用者にも及ぼす影響を話し合い、理解して、慣れに気をつける事を心がけながら、身体拘束をしない介護サービスに取り組んでいる。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のマニュアルを作り全職員が自覚を持って、防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政書士の方に来てもらい、研修を行った。損後も研修を行っていく。	制度に関する資料やパンフレットを準備している。行政書士による成年後見制度の勉強会を開催し、職員全員の理解に努め、利用者や家族が必要とする時、いつでも支援出来る体制が整っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な説明を行ない、また改正の際にも説明を行なった。疑問に思った際には、その都度説明をしている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族の会などで家族からの意見を聞くようにし、また来所された際にも話をするようにしている。出た意見は、カンファレンスなどで話し合い、活かしていている。	毎月の利用料の精算は、家族が来所して支払い、その際、家族に利用者の状況を報告し、意見、要望を聞き取っている。また、利用者の1ヶ月の生活の様子を通信として送付し、毎年十人以上の出席で賑わう家族会を開催し、家族同士が交流する機会を作り、信頼関係に繋げている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を言えるような環境作りに努め、個別やカンファレンスで職員の意見や提案を聞き、反映させている。	職員会議を毎月開催し、2度のカンファレンスで職員の意見や提案を聞き出し、代表の「とりあえずやってみよう」の言葉に習い、出された意見が十分ホーム運営に反映されるよう、管理者は努力している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員に自分自身の評価をしてもらい、管理者と代表者が査定し、年2回の賞与に反映し、個々の努力や実績を反映し働きやすい環境作りをしている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用にあたっては年齢や経験、性別に関係なく行ない、本人のやる気、姿勢を重視している。前職の経験や趣味、知識を活用して生き生きと勤務してもらい、資格取得を希望な際には勤務の調整を行なっている。	職員の採用は、資格、年齢、性別の制限はなく、人間性や、やる気を重視している。また、職員を大切にす代表の考え方が根付き、職員の希望休やシフト変更等への配慮、研修受講、資格取得に向けての支援等、職員が生き生きと働ける環境作りに努めている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修で研修してもらい、人権についての資料を職員全員が観覧できる所におき、いつでも見てもらうように取り組んでいる。	利用者の人権を尊重し、生きがいのある暮らしの支援が継続出来るように、研修会で学んだ事例等を参考に、利用者の人権を守る介護サービスの提供を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月2回のカンファレンス、職員一人ひとりにあった研修、新人職員研修、中堅職員研修などに参加してもらっているようにしている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修で同業者と交流する機会を作って、ネットワーク作りや情報の交換など、また事業所の見学にも行かせてもらっている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を使用し、本人に今何が必要なのか何を訴えてあるのかを探り、環境が変わったことで不安に思っていることなどを日々接することで聞き、信頼関係づくりに努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを始めるにあたり、家族に説明する際に要望を聞くようにしている。また、相談などはいつでも聞けるように配慮し、ゆっくり聞くようにしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の現在の状況を把握したうえで、環境が変わったことで本人が感じる不安を家族に話し、家族と連絡を密にとり、また家族が希望していることに耳を傾け、家族と一緒に本人を支えるように話して、サービスに活かしている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除したり、外出したり、なじみの関係になることで、お互いに協働しながら安心した生活ができるようにしている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、その日の様子を家族に文書にして送り、情報の共有に努め、来所された時は家族と本人で過ごす時間を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年使っていた馴染みの物を持ってきてもらい、友人の方にはこれからも継続して会いに来てもらうように働きかけ、またこちらからも伺ったりしている。	利用者の自宅を見に行ったり、お盆参りに同行したり、利用者の友人、知人の来訪の機会を大切にする等、馴染みの関係継続に向けて取り組んでいる。また、ホームで出会えた利用者同士や職員との馴染みの関係作りも始まっている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんで楽しく過ごせる時間や気の合う方同士で過ごせる時間を作り、関係がうまくいくように職員が間に入り支援するようにしている。一人になりたい方がいる時は気配りしながら見守っている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも御家族の方には相談や連絡できる関係を作っている。こちらから、連絡もしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情から読み取り、希望、意向の把握に努め実行している。困難な場合はカンファレンスで取り上げ、検討するようにしている。	ベテランの職員が多く、比較的意向の把握は出来ている。職員は、利用者の思いや意向を把握するために、寄り添いながら談笑し、利用者の表情や独り言から思いを把握している。また、意向表出が困難な場合は、家族に尋ねたり、過去の記録を見直し、出来るだけ利用者の思いに添った介護サービスの提供に取り組んでいる。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所された際に本人と家族に、これまでの生活歴や生活環境、馴染みの物だつたりを聞くようにし、ケアに活かしていくようにしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方、状態を記録し、生活リズムを理解し、職員連絡帳も活用し職員全員が把握するように努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に1度のモニタリングと毎月のカンファレンスから職員全員で意見交換を行ない、現時点で必要なことをケアに活かし、計画に加えていくようにしている。家族にも説明を行なっている。	介護計画は、利用者や家族の要望を聴き取り、月2回のカンファレンスで気づきを出し合い検討し、6ヶ月毎に見直しを行っている。また、利用者の状態変化や急変時の対応としては、家族と密に連携し、その都度見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の方の日々の様子や状態を職員から見た気づきとして個別に記録し、職員連絡帳で情報を共有するように徹底している。また、カンファレンスの中でも気づきなど話してケアに活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状態をカンファレンスで取り上げ、職員全員で意見交換し活かしていくようにしている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	センター方式を使用し、家族や本人から聞き出すことで、地域資源を把握するようにし、安全で安心した生活をしていくようにしている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所される以前のかかりつけ医の病院に受診してもらっているが、事業所の協力医療機関での受診も受けられるようにし、職員と一緒に受診している。家族が希望される際には一緒に受診している。診察結果や主治医からの指示も家族に報告している。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医受診を積極的に支援している。受診は、病院受診ノートを持って職員が同行し、主治医との信頼関係を築き、情報を共有し、連携の強化に努めている。受診結果は逐一家族に報告し、利用者が安心して長年にわたるかかりつけ医の受診を継続出来るよう支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態を看護婦に報告、相談し、適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には状況を医療機関に報告し、着替えの洗濯を事業所で行なうようにし、その際に主治医に状態などを伺うようにし、早期退院ができるようにアプローチしている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず契約時に終末期のことについて話し合い、その後状況が変化し重度化していくにつれて、家族と本人と話し合いを行ない、往診の先生とも相談もしている。	ターミナルケアの指針を作成し、利用者や家族と相談しながら、重度化に向けた方針をその都度確認し、ホーム提携医と連携を取りながら職員間で話し合いを重ね、利用者が安全で安心した中で終末期を迎えられる環境を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、全職員に読んでもらい、年に1度心肺蘇生の研修も行なっている。	/	
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、防災訓練を行ない、そのうち1回は消防署の方に来所していただき指導してもらうようにしている。発電機も用意している。また、地域の方には訓練を行う前にお知らせして参加の声かけをしている。	年2回防災訓練を実施し、うち1回は消防署の協力を得ながら行い、火災時の通報装置の扱い方、避難経路、避難場所等確認している。地震対策等にも積極的に取り組んでいる。また、非常用食料の備蓄や発電機を配置し、非常災害時に対応出来る体制を確立している。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合ったケアを行ない、カンファレンスで意見を聞き、対応の仕方について学び、実践している。	職員は、利用者と家族のような信頼関係を築き、利用者一人ひとりを尊重し、プライドを傷つけない介護サービスを実践している。また、職員一人ひとりが、利用者の個人情報と、守秘義務の徹底を図っている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位のケアにならないように、本人の思いや希望をじっくり聞くようにし、利用者本位のケアを行なっている。	/	
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日の流れは決まっているが、その日の状態で一人ひとりのペースに合わせて支援している。	/	
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは本人の意向で決めながら職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにし、しかし自己決定ができない利用者の方には職員と一緒に手伝うようにしている。	/	
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえを一緒にしてあり、また片付けも共に行なっている。誕生日の時には、その方の食べたい物、好きな物を出すようにしている。	ホームの畑で採れた野菜を使った美味しい食事を利用者と職員がテーブルを囲み、おしゃべりしながら楽しそうに食べている。誕生日には利用者のリクエストに応じたメニューを提供し、利用者の大きな楽しみになっている。また、少人数で回転寿司に出かける等、外食を楽しむ支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お粥や刻み食など、利用者の方の状態にあった食事に行っている。また、栄養が足りない利用者の方には栄養補助食品を食べてもらっている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月1度、訪問歯科より全利用者の口腔ケアを行なっている。介護が必要な方、自分でできる方を把握し、ケアしている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを現在の状況を把握し、トイレ誘導を行ない、オムツをあまり使用しないようにしている。	職員は、利用者の習慣や排泄パターンを把握し、優しい声かけや早目の誘導でトイレでの排泄を優先し、利用者一人ひとりの、トイレでの排泄の自立支援に向けた取り組みを実践している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や体を動かすことによって、便秘の改善に努め、主治医にも相談し薬もコントロールしてもらっている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、その方の体調や希望に合わせて入浴するか決めている。また、足浴なども行ない、仲良い利用者の方が一緒に入られる事もある。	入浴は、月水金と、火木土に分けて、週3回の入浴であるが、利用者の健康状態やその日の気分を考慮し、柔軟に対応している。また、入浴が嫌いな利用者には、職員が交代で勤めたり、環境を変える等して、無理強いせずに、楽しい入浴が出来るよう支援している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、活動を促して、生活リズムを整えるようにして安心して眠れるように支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方に変更になった時は、個々の記録、連絡帳に記入し、申し送りをし全員が把握するようにし、服薬する時は職員同士で確認してから服用してもらうようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や庭いじり、編物など一人ひとりの力を発揮してもらうようにし、生活に張り合いを持ってもらうようにしている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中は、玄関に施錠をしてないので自由に外に出かけられるようにしている。散歩途中に近所の方に会った時は近所の方から挨拶してきている。希望された方には買い物も行き、家族の方も一緒に外出することもある。	日常的な散歩や買い物、ドライブ等、天気の良い日は、出来るだけ戸外に出て、季節を肌で感じながら、日々の暮らしが生き生きとしたものになるよう、外出の支援を実践している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方の協力を得て、少量のお金を持っている人もいる。家族より事業所にお金を預かり管理している方でも、職員が支援し買い物してもらっている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にそって家族の方に電話できるように家族に協力を得ている。知人の方に手紙を書いてある方もあり、年賀状は全利用者の方に出示してもらうように職員が支援している。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂に花を飾ったり植木を置いたりしている。居間にはソファを置き、仲良い利用者の方でくつろげるスペースがあり、落ち着いて過ごせる環境作りをしている。	複合型福祉施設の特徴を活かし、広い敷地の中に倉庫や畑を共有している。各ユニットの畳敷きの和室には、どっしりとした家具や調度品、手作りのカレンダーが飾られ、家庭的な雰囲気、利用者にとって落ち着いた居心地の良い共用空間となっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	今に大きなソファを2つ置き、気の合う利用者同士が過ごせるようにしている。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使っていた日用品や馴染みのものを持ってきてもらい、自分の家にいるように居心地良く過ごせるようにしている。	居室は、利用者の希望を取り入れ、家族の協力で、使い慣れたベッド、寝具、ソファ、仏壇、三面鏡等の家具や掛け軸や絵、写真等の小物をたくさん持ち込み、利用者が穏やかに過ごし、その人らしいプライベートルームになっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同で使う所には手すりをつけ、自分で歩ける方には自立して歩いてもらい、見守り支援している。		